（第２号様式）

附属機関等の会議開催の概要

（令和8年1月19日）

附属機関等の名称	郡山市地域ケア推進会議		
会議開催日	令和7年11月25日	会議時間	14時00分～15時30分
会議場所	郡山市役所 正庁	公開の区分	(公開)　一部公開　非公開
傍聴者数及び傍聴定員	傍聴者　０人 （定員　５人）	傍聴者の決定方法	(先着順)　抽選
傍聴の状況	特記事項なし		
内容	（1）第１回地域ケア推進会議の振り返りと第２回地域ケア推進会議について （2）令和６年度地域ケア会議事例について （3）地域課題の解決に向けた検討について（グループワーク） （4）その他		
会議の概要	(1)(2)の内容について報告後、地域課題の課題解決に向けた検討について テーマ①医療・介護のニーズを併せ持つ高齢者が住み慣れた場所で生活していくために、②地域で生きがいを持てる高齢者の支援についてグループワーク方式にて意見交換を実施。		
出席者	二瓶健司座長、山﨑久夫委員、續橋紀美子委員、大久みや子、阿部初江委員、栗城美津子委員、渡邉忠義委員、渡邉直子委員、阿久津公宏委員、猪俣加奈委員、桜井茂子委員、柳内知子委員 郡山消防署、地域包括支援センター連絡協議会会長、同主任ケアマネ部会長、郡山市在宅医療・介護連携支援センター2名、あさかホスピタル認知症疾患医療センター、保健福祉部長、保健福祉部次長、健康長寿課課長補佐、健康政策課課長補佐、ダイバーシティ推進課、介護保険課、地域包括ケア推進課4名		
次回開催予定	令和8年7月頃	公開の区分	(公開)　一部公開　非公開
担当所属及び連絡先	地域包括ケア推進課　　電話：024-924-3561		

第２回郡山市地域ケア推進会議での意見まとめ
【地域ケア会議等からみえてきた課題・意見】

検討テーマ	『医療・介護のニーズを併せ持つ高齢者が住み慣れた場所で生活していくために』

Aグループ

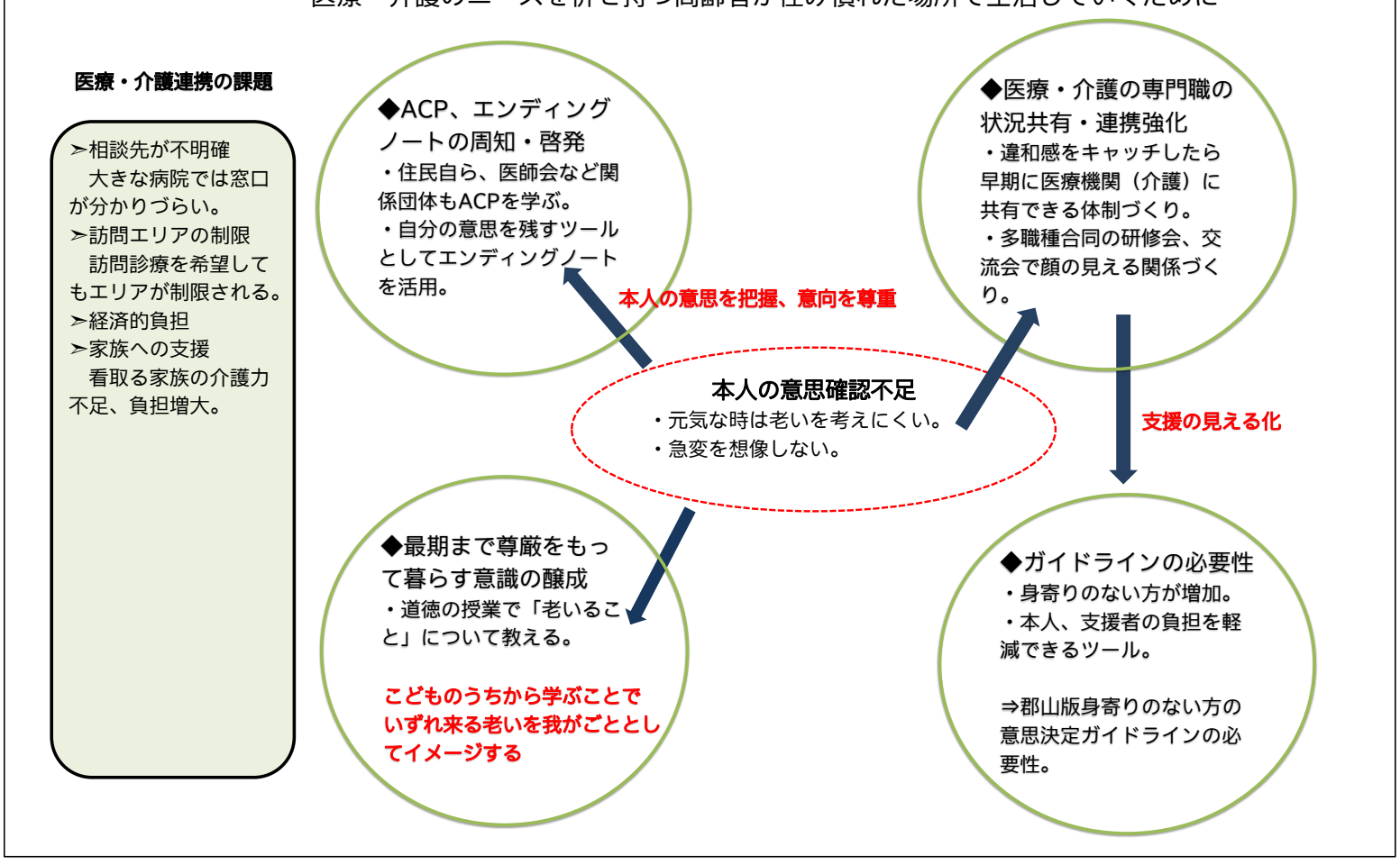
項目	課題解決に向けた意見
孤立・つながり	・近隣のつながり、見守り体制が弱まっている。（特に市街地） ・老々介護、２人暮らし ・親しい人が亡くなったり、引っ越しなどから友人も少なくなっている。 ・人に迷惑をかけたくない、どこへも相談していない。
家族の負担	・マンパワーの問題 本人は自宅を望んでも家族は介護が行き届かない。 ・家族の負担が大きくなる。
独居	・日中独居の災害時、どう対応するか。 ・身寄りがない方が増えており本人の意思確認ができない。
認知症と要介護	・身体、精神面の機能低下。
ACPの普及	・ACP周知、啓発 住民も自主的に学ぶ。Dr.はじめ支援者も理解する。 ・今やっている出前講座などの継続。 医師会など各団体も学ぶ。団体メンバーへ広める。 ・ACP　エンディングノートを活用し自分の意思を残す。
医療・介護のとの連携	・大きな病院では窓口が分かりづらく連携が取りづらい。 ・在宅ケアに切り替えたくても訪問診療の地域が制限される。
経済的	・お金がかかる（必要な医療・介護を受けない）
情報の共有	・クリニックの、病院などからの情報をもらう。→介護につなげていく。 ・介護スタッフが違和感をキャッチ。→早期に医療機関へ共有。 ・家族の相談先、相談できる担当者を明確にする。 ・他職種合同の研修会、交流会を開き顔の見える関係を作る（MSW、CMなど） ・必要なケアが届くように。 ・多職種ケア会議。 ・市町村、包括との連携を図る。
ICTツールの普及	・医療スタッフ、介護スタッフのスムーズな情報共有方法（ICTの活用） ・ICTツールの普及。
実行可能な取り組み	・いつまでも元気でいる。寝たきり、認知症予防。 ・専門職、市民代表の方々へ研修会や通いの場を通してACPやエンディングノートを知ってもらう。 ・研修会、交流会の開催。 ・住民同士の支えあい、見守り 年をとってからではなく若いころからのつながり。 ・その地域で見守りをする人など（民生委員、自治会など）で情報を共有。（共有されるのを嫌がる人もいるかも）

Bグループ

項目	課題解決に向けた意見
介護力の不足	・看取る介護力不足。 ・家族、兄弟以外の知人、友人の確認。
身寄りがいない	・身寄りがない。 相談する場所が分からない。 ・身寄りのない方の入院時に緊急連絡先も含め関りを求められる。 ・身寄りがない。家族が遠い。 ・急変時に備えた自らの意志を決めていない。 ・相談先がわからず身体の状態が悪化してしまう。 ・身寄りがない＝入所できない施設が多い。（ガイドラインの活用が進んでいない） ・郡山版身寄りのない人の意志決定ガイドライン。
本人の意思確認の不足	・個人がどのような方か周りに聞く。 ・意思確認。医療について直前で慌てる。 ・元気な時は老いを考えにくい。急変想像しない。 ・60歳過ぎても仕事をもっていて忙しい。 ・今からACP。 ・高齢者の健診推進。
どのような取り組みが必要か	・包括以上での支援活動。 ・社協生活支援コーディネーターとの連携（医療）。
	・エンディングノートのもっともっと普及。 ・私の未来ノート（遺言ノート）の活用 ・出前講座の参加。
	・学校の道徳で老いることを教えてほしい。
	・訪問診療の推進 ・一人暮らしでも自宅看取りができる体制。

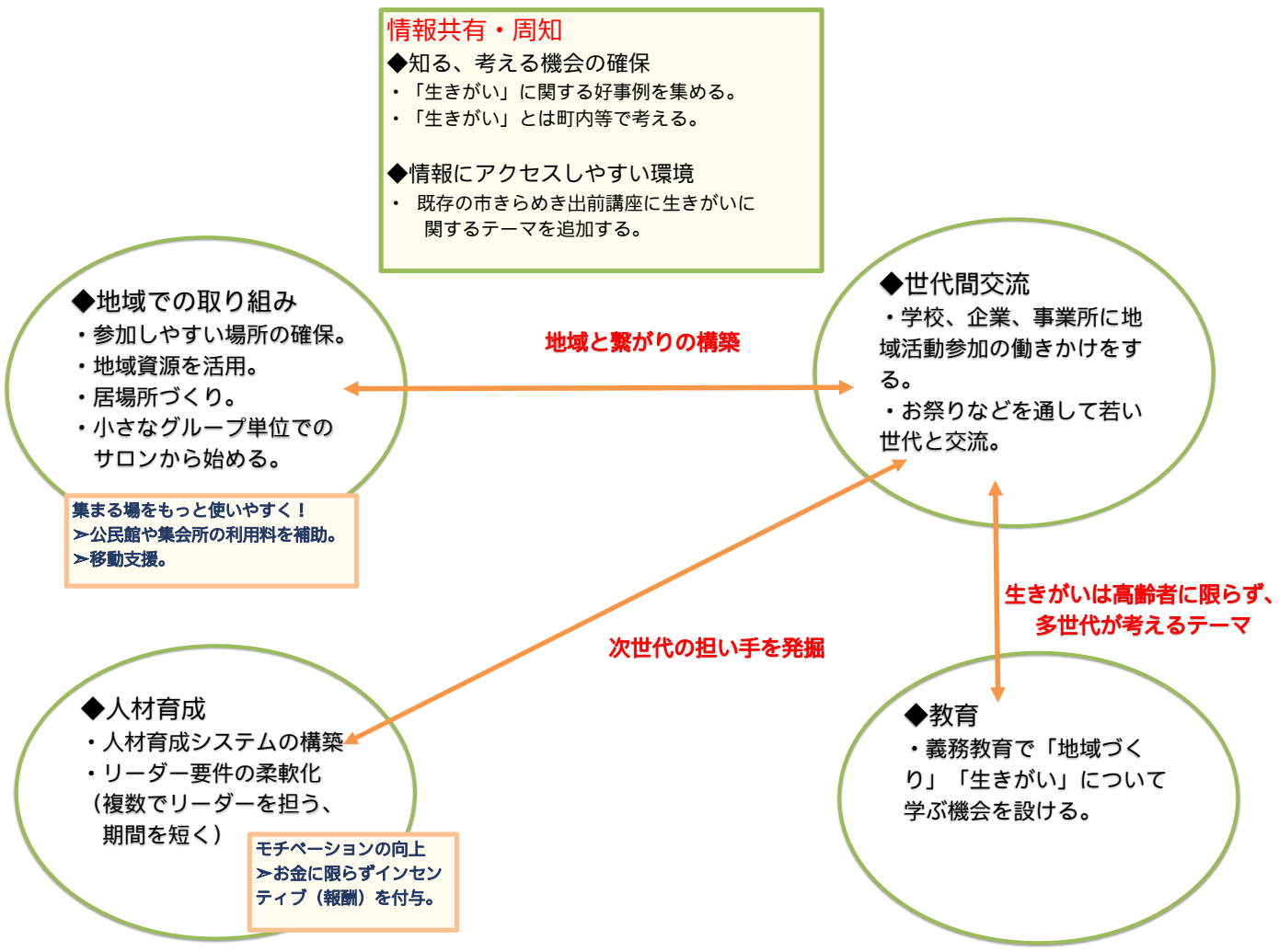
対応策の実施

～医療・介護のニーズを併せ持つ高齢者が住み慣れた場所で生活していくために～



第２回郡山市地域ケア推進会議での意見まとめ
【地域ケア会議等からみえてきた課題・意見】

検討テーマ	『地域で生きがいを持てる高齢者の支援について』				
	項目	課題解決に向けた意見		項目	課題解決に向けた意見
Ｃグループ	課題	・高齢により行動範囲が狭くなってきている。 ・単身世帯の増加。 ・老々介護世帯の増加。 ・8050世帯の増加。 ・避難行動要支援者名簿登録活動。 ・リーダーの負担軽減。（複数or期間を短く） ・男性が出てこない。	Ｄグループ	現状・課題	・同じ方がずっと地域の役員をされていて活動が進まない。 ・若い方との交流がない。 ・町内によっては住民の平均年齢が70歳以上、リーダーの不在、コロナで町内の行事は休止になり、そのまま何もなくなっている。近所の状況が互いにわからない。 ・町内の付き合いがなくても特に困っていないので、以前のような町内会の活動をしなくてもいいと思う人が多くなった。 ・近所と協力を必要とする声を出しづらくなっている。
	①教育	・義務教育の中に地域づくりや生きがいをテーマにした機会を。 ・子ども会と町内会の環境づくりから人材の発掘を図る。		世代間交流	・学校とつながる。 ・多世代交流　学生ボランティア。 ・若い方々との交流ができると良い（お祭りなど）。 ・多世代との交流。 　子ども～様々な世代とつながる機会を。
	②意識づけ	・企業、事業所へ地域活動参加の働きかけをする。 ・地域における専門職、有資格者の活用。 ・人とのつながりの大切さの啓発。 ・健診の時に人とのつながり啓発。 ・高齢者自宅への見回り。 ・町内会機能の強化。 ・顔の見える関係づくり。 ・あいさつ。		情報周知	・様々なコンテンツ。趣味につながるもの。 ・必要な情報の共有。 ・通いの場に初めて参加する人への周知。⇒初めて参加する人が参加しやすい環境を整える。 ・実際に高齢者に聞いてみる。方法はアンケート、座談会、１対１、何でもいいので。
	③生きがいについて考える	・「生きがい」とはを町内等で考える機会。 ・ひとりひとりの「生きがい」の違いを知る、認める機会。 ・「生きがい」に関する好事例を集め発信する。 ・地域づくりマネジメント者を養成、活動の展開を図る。		人材育成	・リーダー人材の育成。 ・リーダーの養成。目的の明確化。何らかのお手当。 ・イヤイヤではなく役割。
	④地域みんなで	・「生きがい」をサポートする人材の育成システムを構築する。 ・市106の出前講座により多くの「生きがい」をテーマにした情報発信の場をつくる。 ・集会所とかに集まるのではなく、高齢者のところに行って実施してみる。 ・「生きがい」づくり、活性化地域でのインセンティブを与える。 ・歩いていけるところでお茶飲み。 ・気軽に参加しやすいイベント。ゴミ拾いなど。 ・まちづくりのためのICT活用（MCSなど）。 ・得意なことを生かせる場づくり。		地域で取り組めること	・参加しやすい場所の確保。 ・居場所づくり。 ・病院で開催のカフェに参加。 ・地域の体育館、公民館に月１回程度集まりがある。（コーラス、イベント等）近隣の声掛け、回覧板など。 ・褒めてもらうことが良い。評価をしてもらうと嬉しい。 ・食事に誘う（〇〇食堂）。 ・どんなことでもまずは参加してみる。 ・認知症家族会開催。相談等の集い。月１度のオレンジカフェ。 ・地域での高齢者の集い。年に１度のバザー開催。 ・小さなグループ単位でのサロンからでもできたら良い。
	地域資源の充実を！	・集会所にエアコンを！ ・地域の資源の活用。 ・集会所の活用。		政策形成	・何かしらの「報酬」。お金に限らず。 ・公民館や集会所の利用料。（補助） ・移動支援。

対応策の実施

～地域で生きがいを持てる高齢者の支援について～